

日 時：令和6年4月30日（火） 16：45～17：20

場 所：富山県庁4階大会議室

出席者：出席者名簿のとおり

1 開会

（事務局）

それでは定刻となりましたので、ただいまから第6回城端線・氷見線再構築検討会を開催いたします。開会に先立ちまして、新田知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

（新田会長）

検討会も6回目となりました。皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画」につきましては、今年の2月に改正地域交通法施行後第1号の計画として、国土交通大臣の認定を受けました。この計画は、長年にわたり、沿線4市の市長さん方の議論の積み重ねの上に、関係者が危機感を共有して、スピード感をもって取りまとめたものであります。この計画には、これまでの検討会や、地域交通戦略会議の議論を踏まえまして、公共交通は社会インフラである、また、地域交通サービスは地域の活力や魅力に直結する公共サービスである、そういう考え方を明記しました。実施計画はいよいよ実行段階に入ることになります。城端線・氷見線が将来にわたり、多くの県民の皆さん、学生さんたち、子供たちにも親しまれ、ご利用いただける持続可能な路線となりますように、皆さんとともに、計画を着実に一步一步実施してまいりたいと思います。

本日は、この再構築検討会を計画実施のための再構築会議に改組するという案をご審議いただきたいと思います。また、計画に盛り込まれた利便性・快適性向上策の1つである交通系ICカードの対応について、意見交換できればと思います。忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

（事務局）

本日の出席者の紹介ですが、お手元に出席者名簿を配付させていただいておりますので、配付をもって代えさせていただきます。

なお、人事異動に伴いまして、オブザーバーの国土交通省北陸信越運輸局鉄道部長の秋山様に新たに就任いただいております。

（秋山オブザーバー）

秋山です。よろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、以後の議事の進行は会長の新田知事をお願いします。

2 議事

(1) 城端線・氷見線再構築検討会設置要綱の改正について

(新田会長)

まず、城端線・氷見線再構築検討会設置要綱の改正について、事務局からお願いします。

(事務局)

資料1「城端線・氷見線再構築会議 設置要綱(案)」について説明

(新田会長)

はい。ありがとうございました。この件、ご質問ご意見あればお願いします。

(質疑なし)

それではご了承いただけますでしょうか。

(一同異議なし)

ありがとうございます。それでは、これ以降は第1回城端線・氷見線再構築会議として進めさせていただきます。委員の皆さんとともに協議・検討を行い、再構築実施計画を前に進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いします。

(2) 交通系 IC カードの対応について

(新田会長)

議事の2番目に入ります。交通系 IC カードへの対応について、事務局から説明いたします。

(事務局)

資料2「交通系 IC カードへの対応について」について説明

(新田会長)

ここで、今後、改札機を整備して運用される JR 西日本の漆原支社長からもご説明をお願いします。

(漆原委員)

まずは改正地域交通法施行後では全国で初めてとなる再構築実施計画につきまして、沿線の4市長の皆さんの熱い思いを、新田知事、富山県の強いリーダーシップでまとめられ、速やかに国土交通省に認定をいただいたことで IC カード対応を早期に実現するという議論ができますことを改めて深く感謝申し上げます。IC カードにつきましては、皆さんもよくご存じのとおりだと思いますけれども、城端線・氷見線の利便性・快適性が変わることが、利用者に実感できる取組みとして、計画に基づいて、令和7年度中のサービス化に向けて、着実に取り組んでまいり所存でございます。改めてになりますが、IC カードは改札機にタッチするだけでご利用いただけますので、運賃表で

行き先までの運賃を調べて事前に切符を買うという行為が不要になります。お年寄りやお子さんなど不慣れなお客様にこそ便利にご利用いただけるものと思っておりますし、海外からのお客様につきましても便利にお使いいただけるものでございます。

また、首都圏や関西圏では IC カードの普及率が非常に高くなってございますので、城端線・氷見線エリアにお越しいただいた方々にとっても、便利にご利用いただけると思います。先ほど資料の写真にもございましたけれども、チューリップフェアなどの際にご不便をおかけした事象も解消できると考えております。

さらに、磁気定期券は紛失したときの再発行ができないことになっているのですが、ICOCA 定期券では、紛失した際に再発行が可能です。そのほか鉄道に限らず、電子マネーとしてコンビニや自動販売機、街中での買い物などにもご利用いただけますので、まさにこの沿線の地域の皆さんの生活を便利にするアイテムになっていけるのではないかと考えております。先ほど事務局から説明があった改札機の設置数やタイプについては、弊社では各駅のご利用状況、あるいは通学時間帯やイベント開催時の混雑といった駅ごとの特徴を踏まえ検討しておりまして、資料に記載のとおり進めてまいりたいと考えております。

整備費 4.6 億円と記載されておりますが、こちらは改札機の発注、各駅での設置工事費、そして改札機の稼働に必要な電力工事、IC カード対応に必要なシステム構築に要する費用を計上させていただいております。

(新田委員)

はい、漆原支社長ありがとうございました。以上の説明について委員の皆さんからご意見をお願いできますか。

(角田委員)

IC カードの設置というのは、利便性の向上がわかりやすく実感できるので大変すばらしいことだと思います。手戻りしないために一点確認したいのですが、例えば東京や福岡の地下鉄ではクレジットカードのタッチ決済を既に導入しています。インバウンド向けに入れていると思うのですが、我々が IC カードを導入し、その後にタッチ機能を追加導入する場合と、最初からタッチ決済対応型を導入する場合でどれぐらい費用が違うのでしょうか。

現状は交通系 IC カードを導入すれば十分だと思うのですが、何年後かにまたクレジットカードによるタッチ決済を追加導入しなければいけないとなるのは、二重投資となるなど手戻りになる可能性はないのか、その点はどのようにお考えでしょうか。

(事務局)

ご説明したとおり、交通系 IC カードでの対応と考えております。角田委員がおっしゃったとおり、首都圏などを中心にクレジットカードでの決済が普及してきていることは承知しております。まず、城端線・氷見線で、交通系 IC カードに対応したものを導入する理由の 1 つは、あいの風とやま鉄道が、交通系 IC カードに対応しており、それとの乗り継ぎを考えているためです。

もう1つは、利用者の多くが高校生だということです。高校生がクレジットカードを持つというのはハードルが高いので、まずは交通系 IC カードへの対応ということを考えております。将来、鉄道でクレジットカードでの決済が普及してきた場合には、その時点で考えることにはなると思うのですが、私が知る限りでは、既存の交通系 IC カードの機械に、VISA タッチ等のクレジットカードのタッチ決済設備を追加しているようにも見受けられるため、追加導入時にも今の交通系 IC カードの対応をすべて入れ替えることにはならないのではないかと考えております。漆原委員から補足等ございましたらお願いいたします。

(漆原委員)

いわゆるタッチ式のものを一緒に導入することと、追加導入することとどれぐらいコストが変わるかは調べてから回答したいと思います。導入する場合はあいの風とやま鉄道の改札機もすべて変更しないといけません。

(角田委員)

必ず導入してほしいという話ではなく、そういう時代の流れがあるということを認識し、計画を立てていかなければいけないと考えます。まずは ICOCA を入れていくということは大事なことだと思いますが、時代の流れは変わっており、首都圏よりも先に福岡等の地方都市でクレジットカードによるタッチ決済が導入されています。早くできるところからやるという流れもあると思うので、そういったところも、情報としてとらえつつ進めていければいいと思います。

(新田会長)

ありがとうございました。そのほかございますか。

(夏野委員)

まず、時期については先ほど令和7年度中の供用開始とありました。システムなので順次開始というのは難しいと思いますが、システム開発ができた端末から供用開始はできないのかなと思います。

それから、富山駅と高岡駅にいわゆるゲート式改札機がありますが、それは資料と同じ簡易改札機なのかあるいはいわゆるフルセット型なのか。あれも簡易改札機だとすれば、その違いというのは何があるのでしょうか。例えば今の砺波駅のように既に改札口として形になっているところは、ゲート型を設置してもらえばいいのではないかと思います。

先ほどの利用形態とか考え方というのがありました。それとメンテナンス面で、若干金額が違うかもしれませんが、高岡駅に採用している理由と、今回の城端線・氷見線に採用しないのはなぜでしょうか。

それと、チャージ機のコストは4.6億円の中に入っているのでしょうか。また、それはすべての駅にチャージ機が設置されるのか、もしくは主要駅だけになるのか教えてください。

(新田会長)

ありがとうございます。まずチャージ機については事務局からお答えください。

(事務局)

今ご質問いただきました IC カードのチャージ機の整備ですけれども、当然あいの風とやま鉄道の駅でもチャージ機が個別に設置されたり、券売機に併設されたりということで、チャージ機能は整備されています。城端線・氷見線においても、チャージ機は、整備する必要があると考えておりまして、どういう形で整備するかにつきましては、今後も JR、あいの風とやま鉄道、沿線市の皆さんと協議してまいりたいと考えております。

(新田会長)

それでは、漆原支社長から補足とコストについてよろしいでしょうか。

(漆原委員)

富山県の説明のとおりでありますけれども、4.6 億円の中にチャージ機の費用は含まれております。

(夏野委員)

それは全駅でしょうか。

(漆原委員)

全駅ではなく主要駅です。一方で、今はモバイル ICOCA というものがあり、スマホの中に ICOCA の機能を持たせることができます。スマホのみでチャージができますし、あるいはコンビニエンスストアでチャージができるようなものです。必ずしも駅だけでチャージするものではないというところは、ご理解いただければと思います。

それと、完成したところから使用開始することはオペレーション上の混乱があるため難しいかと思えます。少しでも早く導入したいというのは私も同じ思いでありますけれども、半導体不足という事情がありまして、改札機の納期としては 400 日程度要する状況です。そのほかに相互利用を行う他会社とのシステム変更があるわけです。影響が広範囲に及ぶ施策でありますのでご理解いただければと思います。私どもとしてはこの令和 7 年度中のサービス開始を目指して取り組みたいと思っております。

それから、ゲート式改札機と簡易改札機を比較して、簡易改札機が劣るといようなことはございません。先ほどおっしゃったようにゲート式改札機は切符対応できるのですが、一方で使用している反対側ではご利用できずお客様が滞留する懸念があります。この簡易改札機だと同時に使用できるという面でメリットがあります。また、ランニングコスト負担のところでも簡易改札機に分があるため、私どもとしては城端線・氷見線においては簡易型改札機がいいのではないかと思います。

(夏野委員)

あいの風とやま鉄道で導入しているものは、簡易改札機なのでしょうか。切符は対応していなかったはずですが。

(日吉委員)

当社の IC カード改札機は、IC カードのみ対応可能です。

(夏野委員)

それは簡易改札機なのでしょうか。ゲート式改札機と簡易改札機はどれぐらい違うのでしょうか。機能が一緒であればよいのですが。

私は富山駅や高岡駅等で色々な改札機を使ってみたのですが、簡易改札機は反応が遅いような気がします。ゲート式改札機のほうが早いような気がします。機能は変わらないのでしょうか。

(漆原委員)

機能は同等で間違いありません。メリット・デメリットを考えたときに簡易改札機が望ましいと考えています。

(夏野委員)

うまくいけば来年度から利用開始ということで、来年のチューリップフェアは、今年のような混乱がなければよいと思いましたが、来年はまだ間に合わないので、オペレーションで対応するという事なので、ぜひ、その点についてもご配慮をよろしくお願いいたします。資料の写真以上の混雑ぶりです。

(林委員)

簡易改札機は IC カードをタッチすると、何か音が鳴るのでしょうか。無賃乗車の防止機能はあるのでしょうか。

(漆原委員)

入場記録がないと、出場時にゲートが開かない仕様となっています。

(夏野委員)

入出場のいずれもが無人駅のときは厳しいが、城端線・氷見線沿いにはそういう悪い人はいないということなのですね。

(漆原委員)

そういう前提をもって運用しております。

(日吉委員)

現在、あいの風とやま鉄道で交通系 IC カード使っているのですが、IC カードの利用

可能区域は、西側は大聖寺、能登方面は和倉温泉、東側は越中宮崎までとなっております。今回、城端線・氷見線の IC 化においても当社での利用可能区域との整合性を図っていただいて、導入を検討いただきたいと思います。

(漆原委員)

城端線・氷見線の各駅からご利用が可能なエリアにつきましては日吉社長がおっしゃった、あいの風とやま鉄道で設定されているエリアと全く同じでございます。城端線・氷見線内はもちろんですし、そこからあいの風とやま鉄道の駅、それから、そこを經由して IR いしかわ鉄道の駅、そして JR 七尾線の和倉温泉までということ考えております。

(新田会長)

いろいろな利便性の向上策もあるわけですが、より多くの方にご利用いただき、かつ機運を盛り上げていく取組みをしていただきたいと思います。そういう意味で IC カード導入のスケジュール、県民への周知というのは、どのようにお考えかお聞かせいただきたいと思います。

(漆原委員)

サービスの具体的な開始日については、機械の納入予定やその他諸活動をもって近いうちに発表していくということになろうかと思います。具体的な月日を発表する前にいつ頃とのアナウンスを行い、具体的な日が近づいてくれば再度お知らせをしてくのかと思っております。そのスケジュールについては私の方でしっかりと検討してこの再構築会議の場でもご相談をさせていただいた後にお知らせをしていきたいと思っております。

(新田会長)

はい、ありがとうございます。それでは、いろいろとご意見いただきました。他に発言がないようでしたら、この交通系 IC カードの整備については、この資料にあるように進めるということによろしいでしょうか。

(一同異議なし)

(3) 今年度のスケジュールについて

(新田会長)

ありがとうございます。続きまして再構築会議の本年度のスケジュールを事務局から説明いたします。

(事務局)

それでは資料 3 の再構築会議の本年度のスケジュールをご覧いただきたいと思います。この再構築会議におきましては、実施計画に定めた取組み施策を具体的に進めていくこととしております。今年度は、本日の会議を含めて、4 回開催する予定にして

おりまして、利便性・快適性の向上策など、実施計画に定めた事項につきまして、協議
いただきたいと考えております。進捗状況にもよりますが、第1回目が本日、第2回
目が7月から8月ごろ、第3回目が11月から12月ごろ、第4回が2月から3月ごろ
ということで計4回開催の予定と考えております。

(新田会長)

ありがとうございます。そのような方向で調整にご協力いただければと思います。
この件についてご意見はございますか。

(角田委員)

新型車両に関して、設計や製造の時間はかなり掛かるものと思っており、なるべく
早めに協議をスタートした方がいいのではないかとと思うのですが、いかがお考えでし
ょうか。

(漆原委員)

新型車両の導入までに仕様やデザインを決めていく必要がありますが、発注や車両
製造後に試運転を行います。導入までの工程を考えますと、基本の骨格となる基本仕
様は年内を目途に決めていく必要があると考えておりますので、今後再構築会議など
を通じまして皆さんとご議論させていただければと思います。

(新田会長)

年内には決める必要があるという漆原支社長からのご発言でした。やはりこの新型
車両というのは、ワクワク感と利便性・快適性向上の重要なポイントだと思います。
次回の本会議は新型車両について開催したいと思っております。よろしいでしょうか。

(一同異議なし)

そうさせていただきます。その他何かご意見があればお願いします。

(4) その他

(林委員)

参考資料の説明というのは最後でしょうか。

(事務局)

参考資料を2つお付けしております。まず、「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計
画」は2月に認定を受けた実施計画でございます。

最後に「城端線・氷見線再構築実施計画の事業スケジュール(予定)」です。これは、
基本的には、実施計画に盛り込みました利便性・快適性の向上を中心に実施計画に記
載した内容について、線表として落とし込んだものでございます。新型車両の購入か
ら両線の直通化まで記載しております。凡例につきましては、下の方に書いてあると
おりでございます。例えば新型車両につきましては、設計、材料購入が令和7年度の
途中から点線が入っていますが、今ほどの漆原支社長のお話のとおり、検討は早く進

めていく必要があるというふうに考えております。例えば3行目のICカード対応、これにつきましては、今年度から着手をしたいと考えています。

(林委員)

一番下の両線の直通化ですが、かっこ書で事業主体変更前に検討ということで、令和10年度まではJR、令和11年度からJRからあいの風とやま鉄道に移管するというので、令和10年度までに検討ということになります。この線を見ると令和11年度から設計、材料購入するということになっております。検討と設計とは違うのかと思っているのですが、その違いはどのように考えているのでしょうか。

(事務局)

実施計画におきましては、直通化について移管前に検討を行って移管後に取り組むということとしており、線表の方もそのとおりとしております。

まず、移管前の検討ですが、具体的にこれまでも城端・氷見線活性化推進協議会が中心になって調査検討を進められてきて、どのような線形が望ましいか、どのような時間帯で何本ぐらいの直通化が可能か、それに対する費用はどれくらいかといったことをすでに調査をいただいているところです。今回あいの風とやま鉄道に移管ということで、それまでの直通化の検討をもう少し深掘りし、あいの風とやま鉄道に移管して事業主体が一体となったときにどのような直通が可能かということを、皆さんで検討する必要があるかと思っております。その結果を踏まえて、移管後に設計、工事ということで考えております。

(林委員)

移管前の検討は基本構想的なもので、移管後は実施設計的なものを考えていくというイメージですね。過去にあった直通化を目指した検討は、非常に線路の本数が多いところを渡っているような設計という検討になっていますので、もう少し氷見寄り、富山駅寄りであれば線路の数も少ない状態なのでそのような検討をぜひお願いしたいなと思います。

(事務局)

今ほどのご意見も含めて、鉄道事業者や県だけで決める話ではございませんので、鉄道事業者さん、それからこれまでも沿線4市の方を中心に調査・議論されているかと思っておりますので、沿線市の皆さんのご意見も踏まえて、議論・検討していきたいと思っております。ただ、この利便性・快適性の向上策の中で、まず今回ICカードについてご説明してご承認いただきました。この後、新型車両について、車両の性能やダイヤ、運行本数にも関係するということで次の車両について議論していく必要はあろうかと思っております。直通化につきましてはそういったことも踏まえて今後議論していきたいと考えております。

(新田会長)

ありがとうございました。そのほかにいかがでしょうか。

(漆原委員)

先ほど高岡市長からタッチ決済の話がありましたが、今現在、自動改札機とセットになった製品はありません。九州地区で導入したものは後付けでタッチ決済機能を付けているようです。今回、新たにその開発をしようとするとう時間がかかります。今回はスピード感をもった対応がいいと思いますし、いずれにせよ手戻り費用の発生はないかと思います。

(新田会長)

それでは一旦、ここで会議を終了させていただきます。先ほど、次回の会議は7月ないしは8月ということをお願いしました。報道によりますと、漆原支社長にはその時には別のお立場に就いておられるというようなことも聞いておりますので、一言、お言葉をいただければと思います。

(漆原委員)

まだ株主総会がございますけども、次期取締役候補として選任いただくことになっております。皆様には、この城端線・氷見線再構築計画についてもそうですし、それ以外のところで鉄道利用促進、観光誘客という面で大きなお力を頂戴しております。この再構築計画を皆様とともにまとめられたのは、自身の人生の中でも大きな誇りとなっておりますし、皆様に本当に感謝を申し上げたいと思います。立場は変わりますが、この計画がしっかりと推進されるよう、よりよい城端線・氷見線になるよう努力してまいりたいと思っています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。